

阪神

HANSHIN

阪神支局

〒662-0918
西宮市六湛寺町
9-11
☎0798(33)5881
FAX0798(37)2477

神戸総局

☎078(351)1771
FAX078(361)3001

姫路支局

☎079(224)5551
FAX079(226)3191
洲本支局
☎0799(22)1450
FAX0799(25)2125
豊岡支局
☎0796(22)6151
FAX0796(29)2338

ドラマ、映画に兵庫の姿残したい

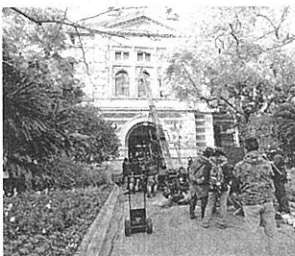
ひょうごの

宝

映画やドラマのロケ地として使われることで地域活性化や観光振興につなげようと平成18年に設立された「ひょうごロケ支援Net」が、8月で設立10周年を迎えた。会長の田中まこさん(61)は、映画やドラマのロケ誘致などを推進する県内のフィルムコミッション(FCS)や自治体を束ね、木村拓哉さん主演のヒット映画「HERO」など、10年間で約250作の映像撮影を無償で支援してきた。「兵庫の魅力を伝えるとともに、時代とともに失われていく風景を、映像に残したい」と熱意はやまない。

■ □ ■
東京で映像制作に携わっていた平成10年、阪神淡路大震災の復興に取り組む神戸市職員から声がかかった。「元気をなくした神戸のため、事業のアイデアはないか」震災翌日、祖母を捜すため

設立10年 250作を無償で支援



映画「HERO」の撮影風景。神戸市内にある県公館が使用された。平成26年12月

に西宮市に入り、10代を過ごした街が壊滅的被害を受けたのを目の当たりにしていた。

田中さんは「震災の悲惨さを伝えたのが映像なら、復興の様子も映像で発信できるので」と、当時どこの自治体にもなかったFCSの設立を提案する。映画などのロケを誘致することで、神戸の映像が使われるとともに、警備員の雇用やスタッフの宿泊施設の活用などで経済効果も生じることができた。

そして、12年9月にFCS「神戸フィルムオフィス」を立ち上げ、映像制作者側の要望をかなえるため、ロケ地を探し、行政などに撮影許可を得るため交渉を行う日々とな

ったが、13年公開の映画「G.O」では神戸市とかけあい、日本で初めて市営地下鉄での撮影を成功させた。
「公開初日、東京の制作者から、『本当に地下鉄で撮影させてくれる自治体があるのか』と、電話が何本もかかってきた」。手応えをつかんだ瞬間だった。

■ □ ■
ロケの依頼が増えると、制作者からの依頼に神戸市内だけで応えるのは困難となってきた。

だが、「石油の掘削装置『オイルリグ』」に見える場所を探しているとき、姫路出身の職員から「姫路に鉄鋼メーカーの施設がある」と聞き、姫路市役所に協力してもらった。この経験から、県内全域でロケの誘致ができれば可能性が広がる。18年に県内8つのFCSと38の自治体などが参加する同Netを設立。県庁に事務局を置き、制作者から問い合わせがあれば、全市町に照会が行くシステムを作った。

同Netの支援を受け、竹田城跡(朝来市)▽書写山円教寺(姫路市)▽武庫川女子大甲子園会館(西宮市)▽あわじ花さじき(淡路市)など、映画やドラマのロケ地となった地域は県内全域に広がっている。作品のファンが観光に訪れることも多い。
同Netの活動を通じて県内の日常の風景を映像に残すことも大きな目標という。

「例えば文化財なら修復されて残るが、毎日、私たちが見ている街並みは変わっていく」。将来の子供たちのために、文化や思い出を伝える役割も担っている。(藤原由梨)



「兵庫の風景を映像に残したい」と話す田中まこさん。神戸市中央区

ひょうごロケ支援Net会長 田中まこさん(61)

たなか・まこ 昭和30年、大阪府高石市生まれ。商社マンだった父の海外転勤に伴い、2度のアメリカ生活を体験。中学2年～高校2年は西宮市で過ごす。大学卒業後、放送局でのADや通訳などを経て、平成12年、神戸フィルムオフィス代表に就任。今年4月から同顧問。国土交通省の「観光カリスマ」や、ジャパン・フィルムコミッションの副理事長なども務める。